

長岡中央総合病院 倫理委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	「合計 10 mmの腹壁創でおこなう腹腔鏡下大腸癌手術」
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
2014 年から現在までに当院で施行された経腔的標本摘出法を用いた腹腔鏡下大腸癌切除術 35 例を調査対象とした。	
③概要	
腹腔鏡下手術の意義の一つに、腹壁破壊の低減がある。単孔式手術や Needlescopic surgery では、標本摘出に小開腹創を必要とするため、創痛や創関連合併症が低侵襲性を損なうといった欠点が挙げられる。われわれは当院 IRB の承認のもとに、大腸癌切除標本の経腔的摘出と体内吻合を組み合わせる手術を実施してきた。今回は、その究極の形を供覧する。	
④申請番号	第 518 号
⑤研究の目的・意義	当院における腹壁破壊を究極まで低減した腹腔鏡下大腸癌手術の工夫を供覧し、短・長期成績を検証する。
⑥研究期間	2014 年から 2021 年 8 月まで。
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	第 122 回日本外科学会総会での発表。
⑧利用または提供する情報の項目	対象患者の手術動画、臨床および病理データ。
⑨利用の範囲	長岡中央総合病院 外科・西村淳
⑩試料・情報の管理について責任を有する者・連絡先	同上
⑪お問い合わせ先（照会先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先）	同上 0258-35-3700（内）5031